

2026年2月13日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ホ ッ ト リ ン ク
代 表 者 名 代 表 取 締 役 檜 野 安 弘
(コード番号：3680 東証グロース)
問 合 せ 先 執 行 役 員 C F O 福 島 淳 二
(TEL. 03-6261-6930)

減損損失の計上及び通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2026年2月13日開催の取締役会において、のれん及びソフトウェア資産について減損損失を計上することを決議いたしました。

また、2025年2月13日に公表いたしました2025年12月期通期連結業績予想と、本日公表いたしました2025年12月期の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

当社は、2025年12月期の通期連結決算において、連結子会社である米国Effyis, Inc.に係るのれん及びソフトウェア資産について、減損損失を計上いたしました。その内訳は、のれんの減損損失890百万円、ソフトウェア資産の減損損失676百万円であります。

近年、生成AIの進展によりデータ活用を前提とした市場環境が大きく変化する中、当社グループはこれまで、同社を通じてソーシャルリスニングSaaS向けのデータ提供を中心とした事業展開を行ってまいりました。しかしながら、SaaS市場の成熟や競争環境の変化が進む中で、当初想定していた成長スピードや収益性については、見直しが必要な状況となっております。

一方で、生成AIや高度分析分野においては、学習や高度活用を前提とした大量かつ整備済みデータに対する需要が拡大しており、当社グループでは、これらの分野を今後の成長領域と位置づけ、事業構造の転換を進めております。こうした事業環境の変化及び中長期的な戦略方針を踏まえ、従来のSaaS向けデータ提供を前提とした収益見通しを保守的に見直した結果、Effyis, Inc.に係るのれん及びソフトウェア資産につきましては、当初想定していた収益の回収を見込むことが難しいとの判断に至りました。

これを受けて、国際会計基準（IFRS）に基づく減損テストを実施した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、減損損失を計上することといたしました。

2. 2025年12月期通期連結業績予想と実績値の差異について

(1). 2025年12月期通期連結業績予想と実績値の差異（2025年1月1日～2025年12月31日）

	売 上 高	営 業 利 益	税 引 前 益	当 期 利 益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	4,116	41	67	27	27	1.73
今回実績（B）	3,651	△1,833	△1,990	△1,787	△1,787	△113.97
増 減 額（B－A）	△465	△1,874	△2,058	△1,814	△1,814	

増減率(%)	△11.3	—	—	—	—	
(参考) 前期実績 (2024年12月期)	4,268	△705	△487	△564	△564	△36.00

(2). 差異の理由

増減額について、売上高は465百万円減、営業利益は1,874百万円減と前回発表の業績予想を下回りました。

主な要因は以下のとおりです。

SNSマーケティング支援事業においては、新規顧客開拓の取り組みは進展したものの、一部サービスにおいて想定していた案件の獲得に至らなかったことにより、売上高は業績予想比で△313百万円下回りました。一方、業務プロセスの見直しやAI活用の進展により、原価率及び販売費及び一般管理費率は改善したものの、保有する投資有価証券について評価損141百万円を計上しました。

DaaS事業においては、SaaS向けデータ提供において生成AIの普及等を背景とした、顧客のデータ利用方針（生成AI活用を前提としたデータ取得・利用方法の変更）の見直しが進んだことを受け、大口顧客における一部商品の解約が発生し、これにより、売上高は業績予想比で△151百万円下回りました。

また、上記「1. 減損損失の計上について」に記載とおり、のれんの減損損失890百万円、及びソフトウェアの減損損失676百万円を2025年12月期連結決算において計上いたしました。

これらの要因により、営業利益は当初予想を下回り、この結果、当期利益ならびに親会社に帰属する当期利益につきましても予想を下回る結果となりました。

以上